

船舶事故調査報告書

令和2年8月19日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 佐藤 雄 二（部会長）
 委 員 田 村 兼 吉
 委 員 岡 本 満喜子

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年3月26日 14時10分ごろ
発生場所	長崎県平戸市生月大橋東側の海岸 生月港館浦新北防波堤灯台から真方位140° 1,100m付近 （概位 北緯33° 21.0′ 東経129° 26.7′）
事故の概要	漁船第八天王丸は、南進中、海岸に乗り揚げた。 第八天王丸は、球状船首部の凹損等を生じた。
事故調査の経過	令和2年3月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第八天王丸、19トン NS2-15621（漁船登録番号）、長崎県漁業協同組合連合会 19.09m (Lr) × 4.43m × 1.79m、FRP ディーゼル機関、573.7kW、昭和61年3月25日 第290-45078号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 41歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成22年5月17日 免許証交付日 平成30年8月14日 （令和2年5月18日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	球状船首部に凹損、船底キールに亀裂
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、令和2年3月26日06時30分ごろ平戸市館浦漁港に向けて長崎県対馬市厳原港を出港した。 本船は、船長が、操舵室にある背もたれ付きの椅子に腰を掛け、約6～7ノットの対地速力で自動操舵により南進中、平戸市生月島北方の鯨島付近で小型の漁船2隻を避けた後、13時20分ごろGPSプロッターの船首方位線を見ながら、館浦漁港北方及び生月大橋東方に設置された両定置網の間に向けて針路を定めた。 船長は、連続した操業での疲れや寝不足による眠気を感じながら操

	<p>船に当たっていたが、館浦漁港北方の定置網に接近した頃、これまで居眠りをしたことがなく、もうすぐ目的地に着くのでそれまで我慢できると思い、椅子に腰を掛けた姿勢で操船を続けていたところ、いつしか居眠りに陥った。</p> <p>本船は、生月島東方沖を南進中、館浦漁港に向かう変針予定場所を通過し、14時10分ごろ生月大橋東側の海岸（以下「本件海岸」という。）に乗り揚げた。</p> <p>船長は、衝撃で目が覚め、乗り揚げていることが分かり、船体の状況を確認し、自力での離礁を試みたが、離礁できなかったため、付近の漁業協同組合に救助を依頼した後、118番通報を行った。</p> <p>本船は、定置網漁業者の漁船により引き出された後、館浦漁港にえい航された。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図 参照）</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約0.9m、船尾約2.0mであった。</p> <p>船長は、本事故当時、巖原港を基地とし、2～3日出漁して1日休むいか釣り漁を繰り返しており、出漁日には、1日に平均で約3時間の睡眠をとっていた。</p> <p>船長は、本事故当日、夜間に沖で操業して早朝に巖原港に帰港し、その後、数日間は天候が悪化する予報であり、地元である長崎県佐世保市での用事もあったので、数日間地元で休むつもりで、休憩をとらずに出港していた。</p> <p>船長は、ふだん、眠気を感じたときには、立って身体を動かしたり、操舵室から出て外気に当たったりしていたが、本事故当時、出港時から眠気があったので、休憩してから出港するか、無理せずに出港しなければよかったと本事故後に思った。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、生月島東方沖を自動操舵で南進中、単独で操船中の船長が居眠りに陥り、変針予定場所を通過して本件海岸に向かって航行を続けたことから、本件海岸に乗り揚げたものと推定される。</p> <p>船長は、連続した操業での疲れや寝不足による眠気を感じている状態で出港したことから、椅子に腰を掛けた姿勢で操船を続けているうち、覚醒水準が低下し、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、生月島東方沖を自動操舵で南進中、単独で操船中の船長が居眠りに陥り、変針予定場所を通過して本件海岸に向かって航行を続けたため、本件海岸に乗り揚げたものと推定される。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 出港前に疲れや寝不足による眠気を感じている場合には、無理して出港せず、休憩をとり、体調を整えた上で出港すること。・ 操船中に眠気を感じた場合には、椅子から立ち上がったたり、船を停止して休憩をとるなどして居眠りを防止する措置を採ること。 |
|--|--|

付図1 事故発生経過概略図

